

# 資料館だより

企画・編集 国立ハンセン病資料館

発行 公益財団法人  
日本科学技術振興財団

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13

電話 042-396-2909

FAX 042-396-2981

URL <http://www.hansen-dis.jp>

参加各国代表によるグローバル・アピール宣言

その後、各国の回復者と関係者の代表が壇上にあがり、国際看護師協会との共同宣言としてのグローバル・アピール2015を読み上げた。午後、ハンセン病国際シンポジウム「今、何故ハンセン病問題なのか？」が行われた。まず最初に全体会の位置づけで「ハンセン病回復者によるライフ・ヒストリーの共有」、その後、3つのテーマを掲げたパネルディスカッションが開かれた。

テーマ1は、「医療・看護の現場における課題と展望を議論する」「ハンセン病と医療・看護—あらゆる人に尊厳あるケアを—」、テーマ2は、「ハンセン病の歴史遺産の保存と活用について議論する」「風化させてはならないハンセン病の歴史」、テーマ3が、「医療・看護の歴史」、当事者運動、行政など様々な立ち位置から議論する「ハンセン病問題の将来—私たちにできることは？」であった。国立ハンセン病資料館からはテーマ2のパネリストとして平沢保治運営委員、黒尾和久学芸部長が登壇した。

平沢運営委員は、自らのライフ・ヒストリーを語るなかで、ハンセン病の歴史を語り継ぐハンセン病資料館の創設が「らい予防法」の廃止や国賠訴訟を勝利に導く原動力となったと力強く述べた。しかし今なお多くの回復者が仮名を使い、故郷を伏せ、肉親との交流がままならない現状にも触れ、ハンセン病問題には国境はない、その歴史遺産・教訓を未来に向けて役立てられるか否かは、多くの人々の理解を得られる、社会の発展に寄与できる施策を様々な講じていると締めくくった。

1月27日(火) ANA インターコンチネンタルホテルで、「THINK NOW ハンセン病 グローバル・アピール2015」ハンセン病患者と回復者に対する社会的差別の撤廃に向けて」(日本財団主催)が行われた。

この国際会議は、「世界ハンセン病の日」にあわせて毎年、世界各国で行われ、10回目の今回、初の日本での開催となった。午前の式典には、安倍首相、塩崎厚労大臣も臨席し、来賓挨拶にて、ハンセン病に対する正しい知識の啓発、差別・偏見の解消、回復者の穏やかな生活の保障、名誉回復事業の実践を、政府の責任で行うことを改めて約束した。

## グローバル・アピール2015 シンポジウム・見学会に 国立ハンセン病資料館も協力



シンポジウム参加者の資料館見学

ションが開かれた。

テーマ1は、「医療・看護の現場における課題と展望を議論する」「ハンセン病と医療・看護—あらゆる人に尊厳あるケアを—」、テーマ2は、「ハンセン病の歴史遺産の保存と活用について議論する」「風化させてはならないハンセン病の歴史」、テーマ3が、「医療・看護の歴史」、当事者運動、行政など様々な立ち位置から議論する「ハンセン病問題の将来—私たちにできることは？」であった。国立ハンセン病資料館からはテーマ2のパネリストとして平沢保治運営委員、黒尾和久学芸部長が登壇した。

また来日した式典参加者には国立ハンセン病資料館の見学を希望する方も多く、翌日午後には大型バスで来館した。稲葉学芸課長が展示室を、黒尾学芸部長が多磨全生園内の史跡を案内した。前日のシンポジウムでの議論を踏まえた参加者の質問も多く、自国の療養施設との比較を踏まえた感想を聞くこともできて、案内する側にとっても有意義な見学会になった。

全療協中執会議



この後予定されている作業部会の内容は、協議事項として①賃金職員定員化後の期間業務職員の補充について②医師・看護師定員欠員補充③大島・船員の地位の安定化④介護員以外の職員の確保⑤療養所の保存永続化を検討する場の設置⑥療養所内人権委員会構想等である。担当者からそれぞれ現状報告、説明もあり質疑応答も行われた。療養所保存永続化については「現状では先に進めない。議案に採択して頂き政治問題化すべきだ」等の意見も出された。

15時から17時までは厚労省11階第9会議室で、統一交渉団と医療経営支援課・佐藤課長他5名、疾病対策課・原副課長補佐による在園保障・作業部会が開催された。厚労省の回答は①賃金職員定員化後の期間業務職員の補充は徐々にふえている、②医師・看護師の欠員補充は地理的・給与面の問題もあるが、副園長、内科医は早急に解消したい、③看護師、介護員については充足できない要素が幾つもあり苦慮している、と述べ問題の複雑さが浮かび上がった。

## ハンセン病問題の複雑化 作業部会で浮かび上がる

現在国立ハンセン病療養所13園の入所者は1700人程となり、平均年齢は83才を超えている。高齢化に伴い誰もが二重三重の障害を持つており、6割以上の人が職員の看護、介護のお世話を受けないければ生活出来ない状態だ。

平成26年4月調査の全療協統計資料集によると、①ねたきり不自由者173名、②要食事介助者573名、③特別食・治療食594名、④失禁・おむつ使用者560名、⑤認知症490名となっており、入所者数は減つても失禁・おむつ使用者は逆に前年度より90名もふえている。

全国ハンセン病療養所入所者協議会（全療協）は2月26日（木）9時より愛宕山の弁護士ビルで、森会長、藤崎事務局長、非常勤中執（佐川、石川、金城）3名による中執会議を開催した。議題は4月21日の代表者会議に提案する①平成27年度運動方針骨子の検討、②エンド・オブ・ライフケアについて、③人権擁護委員会の設置④世界遺産登録問題、等である。

13時から霞ヶ関の弁護士会館で、全療協、全療協、東京、瀬戸内、九州弁護士会の関係者10数名による「ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会」が開催された。



2月21日14時から、国立ハンセン病資料館映像ホールにおいて「人権の森フォーラム 私たちが考える人権の森」（東村山市主催）が開催された。

最初に渡部尚東村山市長が開会挨拶に立ち、多磨全生園入所者自治会（以下、自治会）が掲げる将来構想「人権の森構想」について、意見交換の場として述べた。

「第一部 人権の森にまなぶ」では、写真集『いのちの森に暮らす』（発行：東村山市・自治会）に掲載された全生園の四季と入所者を撮影した写真のスライド上映が行われた。さらに、同書で写真撮影を担当した宇井眞紀子氏と広瀬敦司氏が登壇し、撮影にまつわるエピソードや全生園への想いなどを語った。続いて、中学生のころ全生園入所者から話を聴く「傾聴ボランティア」として活動してい

た3人の高校生（本橋果林さん、朝原望美さん、俵谷優佳さん）が入所者の話を紙芝居にした作品を披露した。

「第二部 人権の森を考える」のパネルディスカッションでは、佐川修氏（自治会長）、新保庄三氏（土の根会理事長）、石田玲奈氏（東村山市教育委員会）、3人の傾聴ボランティアが登壇した（司会は渡部市長）。佐川氏は、「自分たちが育てた全生園の森への想いを、自分たちがいなくなった後は東村山市と市民の方に受け継いでほしい」と発言。それをうけパネリスト各人は、全生園との関わりから学んだこと、「人権の森構想」実現のために必要な取り組みなどについて、それぞれの立場から発言した。

最後に、花さき保育園の園児たちが歌を披露し、和やかな空気に包まれながら閉会となった。

## 資料館で人権の森フォーラム 人権の森構想実現のために

病対策課・原副課長補佐による在園保障・作業部会が開催された。厚労省の回答は①賃金職員定員化後の期間業務職員の補充は徐々にふえている、②医師・看護師の欠員補充は地理的・給与面の問題もあるが、副園長、内科医は早急に解消したい、③看護師、介護員については充足できない要素が幾つもあり苦慮している、と述べ問題の複雑さが浮かび上がった。

人権の森ポスター



# 二〇一五年四月から 社会啓発課が本格始動

ハンセン病患者・回復者への偏見・差別と人権侵害の再発防止には、ハンセン病についての正しい知識とともに、ハンセン病を理由として人を差別し、地域社会から排除することは許されない、人は人として尊重されるということを繰り返し啓発することが大切です。

ハンセン病患者・回復者に対する偏見・差別の解消と名誉回復、人権学習のため、より多くの方々に当資料館に来館して頂きたいのですが、遠方の方など当館への来館が難しい場合があります。ハンセン病問題に対する教育啓発は全国規模で行われるのが望ましいと考えています。そのため、出張講演、また、自治体等が主催する写真パネル展への講師派遣、語



厚労省で各県担当官に「啓発」講演

り部DVDや啓発DVDの作成、啓発用パンフレットの作成と普及など啓発事業を強化推進するため二〇一五年四月から社会啓発課が本格的に活動を始めます。社会啓発課では、以下の事業を行います。

## 1. 教育啓発

- (1) 講演会に講師を派遣します。
- ①市民公開講座、新任職員人権研修会、人権担当教員・職員研修会、小中学校等の教育機関、医学部・看護学部などに講師を派遣します。
- ②講演内容・ハンセン病医学、ハンセン病の歴史と政策、ハンセン病療養所の現状、人権など。
- ③時間…一時間～二時間
- ④費用…無料

(2) 自治体等の人権啓発事業への国立ハンセン病資料館所蔵の「写真パネル」と「DVD」の貸し出しを行います。

- ①写真パネル（無料、送料着払い）
- ・全国の療養所（46枚組）
- ・全療協60年の歩み（39枚組）
- ・多磨全生園（24枚組）
- ②DVD（無料、送料着払い）
- ・平沢さんの語り部（30分～44分）
- ・「ハンセン病を知っていますか」（15分）
- ・「忘れられた人たち」（子ども向け、9分）

(3) 英語版啓発DVDの作成  
英語版「ハンセン病を知っていますか」

すか」を作成します。

(4) 「ハンセン病と人権」夏期セミナーを開催します。

・生徒たちにハンセン病問題の本質を伝え、人権について考えていただくためには、学校の先生にハンセン病問題について正しい理解をしていただくことが大切です。人権について先生と生徒たちが共に話し合い、共生のための行動を始めるきっかけを作っていました。そのため、教員を対象としたハンセン病問題を総合的に学習できる「ハンセン病と人権」夏期セミナー（参加費無料）を二〇一五年八月一日（水）・二〇日（木）に国立ハンセン病資料館で開催します。

(5) 教育委員会に資料館の人権

## 永岡厚労副大臣が来館 展示・企画展全てを観覧

3月16日(月)  
永岡桂子厚生労働副大臣が来館した。多磨全生園を訪問し、納骨堂に献花してから、資料館を訪れた。



写真「舌読」の説明を聞く永岡厚労副大臣

視察の最後には平沢さんから、当館の収蔵庫増設、各園の資料館への学芸員配置、道徳教育にハンセン病の学習を取り入れることの3点について、実現に向けた支援のお願いがあった。永岡副大臣はほぼ1時間にも渡り資料館に滞在し、開催中の企画展も含めすべての展示をご覧になった。

学習プログラムを説明し、小中学校の来館について協力を依頼します。

## 2. 調査研究

(1) 各園資料館（歴史館・社会交流会館等）と社会啓発について交流・調査・研究を行います。

(2) 日本ハンセン病学会、日本精神・神経学会などと連携し、疾患と偏見・差別、人権侵害について調査・研究・発表を行います。

## 3. 情報センター機能

- (1) ホームページの充実
- ・キッズコーナーを充実します。
- ・Q&Aコーナーを充実します。
- ・英語ページを充実します。

(2) 英語版ハンセン病資料館紹介パンフレットを作成します。

の前では、実際に山吹舎に住んでいた時の話を、患者作業のコー

ナーでは、軽症患者が重症患者のお世話をする付添看護や、膨大な量のよれた包帯を巻き直す女性や子どもの作業について説明した。

また、「舌読」の写真の前では、重い身体障害があっても、人として自分にできることを全うする大切さを、陶芸作品のコーナーでは全国の療養所に数多くの陶芸作家がいることを伝えた。窓の外に見える桜並木についても、60年来の緑化活動の結果、現在では地域の人々で賑わうお花見の名所になっていることを話した。永岡副大臣は、自身の体験談を交えた平沢さんの説明を熱心に聞かれた。

偶然にも永岡副大臣の選挙区と平沢さんの出身地と同じだったため、視察は終始「同郷」の親しさからくる和やかな雰囲気の中で進んだ。時折、駅前にある店の話などのように、同行していた人々にはほとんど分からないほどローカルな話題も挟みつつ、会話が弾んだ。

## 企画展「この人たちに光を」 後期17点を入れ替えて開催

3月1日(日)から写真を一部入れ替え、企画展「この人たちに光を」写真家趙根在が伝えた入所者の姿」後期が始まった。

後期では、今回入れ替えを行った新たな写真17点を含めた全66点をご覧いただくことができる。ここで入れ替えた作品数点についてご紹介したい。

本展では趙根在の写真テーマに分けて展示しているが、日常を写した写真として「共用の流し場」、「雑

居部屋の掃除」がある。現在、入所者は個室で生活しているが、趙がこれらを撮影した1970年はまだ複数人による雑居生活であった。お互いに気を遣いながら少しでも快適に生活をしようとする様子がこの2点から窺える。

患者作業の写真としては新たに「茶葉を刈る」、「養豚」、「裁縫」、「布団の打ち直し」、「包帯の巻き直し」、「床屋」、「ごみ回収」の7点を展示した。これらの写真は、いかに多くの仕事を入所者が担い、療養所運営がなされていたのかという点を改めて示している。

これまで展覧会をご覧いただ



た方からは「入所者の方々の多様な表情に出会えて感動した」という感想も寄せられている。是非この機会にご覧いただきたい。会期は5月31日(日)まで。

ハンセン病市民学会第11回総会・交流集会in東京・駿河が5月9日・10日に開催される。全体テーマは「バトンをつなごう」当事者運動と市民のかかわり」。

1日目は都内の日経ホールが会場となっている。開会式・総会の後、交流集会第1部は徳田靖之弁護士と坂元茂樹同志社大学教授による報告「ハンセン病問題の現状と課題」、第2部は宮坂道夫新潟大学教授をコーディネーターに、森和男全療協会長と青木美憲邑久光明園副園長をパネリストに迎えシンポジウム「バトンをつなごう」当事者運動と市民のかかわり」が行われる。

## 星塚敬愛園・沖縄愛楽園に 充実した展示施設

近年、各療養所での展示施設の設置やリニューアルの動きが盛んになっている。

昨年12月15日、星塚敬愛園創立80周年を迎えるにあたり、同園に「社会交流会館」がオープンした。館内には歴史展示室、図書・閲覧室、エントランスホール(作品展示、交流スペースなど)が設けられている。

同園では二〇〇五年から文化会館に展示室を設け、実物資料を中心に展示していたが、「社会交流会館」のオープンに際し展示室を大幅に拡張し、全面リニューアル



星塚社会交流会館の内覧会

したものである。園内に保管されていた大型の実物資料や夫婦雑居

時の居室復元なども組み込み、解説パネルには写真が豊富に盛り込まれ、大変充実した展示となった。沖縄愛楽園には今年3月に「交流会館」が完成した。そのプレオープン式典の際、館内の資料展示室の内覧会も行われた。展示室は今年6月1日に一般公開する予定である。

どちらも長い期間をかけて企画され、完成に至ったものである。各療養所の歴史を紡いでいく場として、あるいは地域における社会啓発の拠点として、現場での資料保存・活用に向けて大きな役割を果たすだろう。今後、多くの人びとが各療養所の展示施設を訪れることが期待される。

## 第11回ハンセン病市民学会 資料館も分科会講演会会場に

治体との連携」(同園コミュニティセンター)、E「駿河療養所・神山復生病院を訪ねてバスツアー」(静岡県御殿場市)。

分科会D「自治体との連携」では、コーディネーター・近藤剛(弁

午後、平沢保治さんと森元美代治さんが多磨全生園を案内する「園内フィールドワーク」、特別企画「学生・市民入門講座」学生・地域の皆さん大歓迎」、当館企画

護士)、パネリスト・佐川修(多磨全生園入所者自治会会長)、石山春平(退所者・あおばの会会長)、東村山市長、武久顕也(瀬戸内市長)、熊本県担当者が出席し、連携の現状や療養所の将来構想など

展の附帯事業で開催した大竹章さんによる講演会「趙根在の写真を語る」(当館映像ホール)が行われる予定だ。

問い合わせは、東京・駿河集会実行委員会(水野法律事務所)まで。

TEL: 〇三三三五八四四七二  
FAX: 〇三三三五八四四七三  
メール: mizuno@mbc.ocn.ne.jp  
なお同時期に当館1階ギャラリイでは「道輔さん」多磨全生園・元ハンセン病図書館員 山下道輔氏の記録2002〜2014 黒崎彰写真展」が開催される(会期4月29日〜5月10日)。